

ODA

しゃりん

64

沖縄脊髄損傷者連合会

編集: 沖縄脊髄損傷者連合会 TEL/FAX 098-886-4211
 〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1西棟2階・ボランティア小規模団体室
 Eメールアドレス sekiren@proof.ocn.ne.jp
 ホームページアドレス <http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>

障害者自立支援法に関する参考人意見陳述

去る三月七日(火)、沖縄県議会文教厚生委員会において、チーム沖縄からの代表者10名により障害者自立支援法に関する参考人意見陳述が開かれました。これは、障害の種別を超えた当事者個人で参加するチーム沖縄が県議会議長あてに提出した、自立支援法に対する陳情書をうけて、さらに詳しく意見を聞きたいと、文教厚生委員会の委員からの要請があり行なわれました。少し広めの委員会室を準備したにもかかわらず、傍聴者の人数が入りきれず、急遽事務局の配慮で、委員会の質疑の内容が画面で見られる別室を用意して

いただくほど、この問題に対する障害当事者の関心の高さを伺うことができました。



東横インと那覇市へ要望書提出

去る二月二十日(月)、ホテル東横イン並びに那覇市に対して、福祉のまちづくり条例に関する意見提言・要望書を沖縄バリアフ

リー研究会の井上氏と沖脊連役員合同で提出しました。まず、ホテル東横イン側へは、県内で営業する3店舗の支配人と設計士が同席の上、私たちからの要望書を提出しました。ホテル側からは、受け取った要望書は本社の責任者へ必ず届ける旨と、那覇市に提出中の改善計画書を3店舗の図面を開きながら、担当の設計士より説明がありました。その後、那覇市役所へ出向き、まちづくり条例の中でチェック体制の不備の部分指摘し、障害当事者との連携を深めながら事業を推進していくよう要望しました。なお、東横インからは、要望書提出から一週間後、西田代表取締役より、沖脊連の会員に対し

て、一連の不適切な言動に
関するお詫びの文書が届き
ました。

九州ブロック定例会の 参加報告

去った三月十日(金)・十
一日(土)の1泊2日で、福岡
県のクローバープラザで開
催された定例会に参加して
きた。福岡空港から地下鉄
等電車で約二十分の春日駅
前にクローバープラザがあ
る。アクセス環境が抜群に
良く、重度のメンバーでも
一人で行動可能と思いま
す。さて、今回の定例会の
議題は①障害者自立支援法
審議経過の中での、全脊連
本部が提出した「障害者自
立支援法の早期成立の要望
書」に関する問題提起。②
平成十八年度脊髄損傷者ピ

アマネジャー養成研修の九
州ブロック地区開催の取り
組みについて。の2点で
あった。①については、昨
年九月ごろ同法案に対し
て、全国の障害者団体が反
対姿勢で国に対し、デモ行
動、署名等のアクションを
起こしていた状況の中で、
突如本部会長名で、「早期
成立の要望書」が出された
ことで、反対行動をしてい
た各支部は地域での立場が
悪くなるなどの問題が発生
した(沖縄でも同様なこと
が起こり、他団体に後ろめ
たさがあつたことは否めな
い)。この一連の経過の問
題は、根幹的法律(障害者
自立支援法の成立及び改正
等)等に関する法人として
の要望又はスタンス表明に
ついては、各支部との合意

形成の必要があるにも関わ
らず独断で表明してしまつ
たことであるとして、九州
ブロックとして提起となつ
た。②については、仲根が
本部の検討委員の一人とし
て、これまで開催した、関
東、東北、関西に関わつた
経過から、九州地区の研修
(平成十八年度九月ごろ)
は仲根が企画担当するよう
にと指示(織田氏から)さ
れているので、受けること
となった。期日、場所が決
定され次第各支部に案内を
出し、支部参加枠(動員)
五名と決定されたので、沖
縄でも早期に検討し予算と
参加者の確保に努めたい
(希望者は事務局まで)。
相変わらず九州の各支部
は会員減少、不活発に悩ん
でいた。沖縄の現状は、九

州に比較したら活発ではあ
るが、いつの日か同様な低
調傾向の時代を迎えるかも
しれないと想像すると身震
いする思いです。そうなら
ないように、会員一人一人
が意識を高め、支えあえる
和を大切とした沖縄脊髄損
傷者連合会にしたいもので
す。

報告副代表 仲根

パラリンピックキャラ バンにおきなわ

去る二月十一日(土)、十
二日(日)、那覇簡保レクセ
ンターにおいて、パラリン
ピックキャラバンが二日間
開催されました。

パラキヤンは、車椅子バ
スケットボールを通して、
障害者スポーツの面白さと

競技性の高さを障害者スポーツ選手が直接伝えることにより、障害者への理解促進だけでなく、様々なことに柔軟に対応できる心豊かな考える力のある子供を育て、車椅子バスケットボールの普及・啓発の一助とするを目的に、全国各地で開催されており、沖縄では去年に引き続き二回目の開催となりました。

大会では講師として、元車いすバスケットボール日本代表選手、県内の車いすバスケットボールチームのシーサークラブ、車いすツインバスケットボールチームの沖縄フェニックスが参加し、車いすバスケットボールのルール説明をはじめ、競技用車いすの操作、シミュート練習などを指導

し、又参加小学生同士による体験ゲームも行なわれ、いきいきと楽しそうにプレーしていました。大会二日間で、ミニバスケットボールチームを中心に小学生約500名の参加があり、障害者への理解、障害者スポーツの面白さを伝えることができ、充実した楽しいパラリンピックキャラバンになりました。



第7回ウイルチエアラ

グビー日本選手権大会

ウイルチエアラグビーの第7回日本選手権が3月18、19の両日、大阪市のアミティ舞洲で開催されました。3位決定戦でニュージーランドからアテナパラリンピック金メダリストの外国人助っ人を加入したスーパースニック(宮

城県)に惜しくも敗れ、4位決定戦でジェネシス(埼玉県)に勝ち、前回大会同様4位に終わりました。

クラス別ベストプレイヤー賞を當間貴志選手が、MVP賞に次ぐMSP賞を仲里進選手が受賞!両選手は、9月に開催されるニュージーランドでの世界選手権への日本代表入りに大きなアピールとなりました。

応援して下さったたくさんの方々、スタッフや家族、サポーターの皆様ありがとうございました。

多大なご支援を頂いた脊損連合会の皆様に心より感謝申し上げます。次こそは、決勝の舞台へ行けるようチーム一丸となって頑張ります。



ウィンターリーグ

2006参加

二月二十五日(土)、二十六日(日)の二日間、大阪市此花区にある大阪市舞洲障害者スポーツセンター「アミティ舞洲」で行われた『WINTER LEAGUE 2006』に沖縄フェニックスの選手八名・スタッフ四名で参加。見事を優勝し五連覇を達成しました!大会は変則リーグ戦(同地区の対

戦はなし)を行い、順位を決定します。各試合の勝ち『3点』引き分け『1点』負け『0点』を加算し勝ち点の合計で順位を決定。同勝ち点の場合は勝数、総得失点差で決めます。フェニックスは全勝で優勝を決めました。五月に埼玉で日本選手権が開催されます。全国制覇に向けていいスタートがきれました。

上与那原寛和

私は、三月五日(日)日南車椅子マラソンに参加し、Bクラスで一位になりました。自分の目標タイムが1時間きるということだったのでそれが達成出来なかったことはとても悔しいですが、目標の50分台を目指してこれまでも頑張ってきたと思います。

広告

毎月三十日発行
ODA通巻346号

発行人 沖縄県南風原町字神里六三一 編集人 沖縄県身体障害者福祉協会

沖縄県那覇市石嶺町四一三七三一西棟2F
ボランティア小規模団体室・しゃりん編集部

上里一之

購読料は会費に含む
【頒価 二十円】